当院における多発性嚢胞腎（ADPKD）透析患者の心理

医療法人衆和会　長崎腎病院

○小中尚子　白井美千代　中村麻美　澤瀬健次　船越　哲

【背景】
ADPKD は常染色体優性遺伝の疾患で、本邦の透析患者の原疾患の 3%を占める。診断率は高く、多くは中年以降に末期腎不全となるため、他の腎不全原疾患と異なる心理的背景を有すると推測される。
【目的】
当院における多発性嚢胞腎（ADPKD）透析患者の心理を明らかにする。
【方法】
当院の血液透析患者390名のうち、原疾患がADPKDの患者を対象に、同意を得た上で家族も含めた意識調査を 2015 年、2023 年と 2 回行った。
【結果】
当院の ADPKD 患者の累計人数は 22 名であった。全国調査と同様の頻度であった。平均年齢は 60.6 歳と母集団の 67.2 歳より有意に低かった。全員既婚で、配偶者に ADPKD の診断と遺伝性を告げており、18 名が有子であった。
【考案】
今回の調査では、ADPKD を原疾患とする透析患者の大多数が結婚と挙子を実現しており、『家族』に対する強い思いが窺われた。